

八木健の川柳アート

43

川柳にワンコメント

つけてみるのも楽しいよ

振り込め詐欺の芸術大会なんかどう？

(次々に新手を繰り出す悪知恵に感心)

ロス疑惑自分勝手に幕を引き

(裁判の経過を見たかったのにね)

ノーベル賞貰いすぎると価値下がる

(日本はこれで合計十五人となるらしい)

楽しみなのは弁舌の格闘技

(石井慧が格闘家に転向と聞いて)

特選

選者・川柳アート
八木健

月刊川柳総合誌「川柳マガジン」元選者



日浅 純子 (松山市)

粗探しする必要のないハイビジョン
シミソバカスからカラスの足跡までくつきり映し出すからね。政治家のゴルフ焼け、テレビキャスターも前夜の飲酒過多が露見するから要注意とか。ハイビジョンを開発したNHK放送技術研究所は、ノーベル賞をもらってもいいと思いますね。

佳作



兵頭 紀子 (鬼北町)

原潜に負けぬ鯨が守る海

海上自衛隊のイージス艦「あたご」が見つけた「潜水艦」は、クジラだった可能性がある。最新鋭の機器でクジラを潜水艦と誤認したとすれば、そんな自衛隊に日本の防衛を任せてよいものでしょうか。いつそのこと警備はクジラにお願いしましょうよ。



岩間 昇 (東温市)

鍋奉行だけが知ってる肉の位置

役得……、ですよね。かあさんが鍋奉行すると、野菜に隠していた部厚い肉をかわいいう末つりに回したりするものです。もっとも、最近では鍋物における肉の値打ちが下がって肉だけ残ったりするから、早めに表面に出すことも……。



渚 ちまた (松山市)

便座にて秋の気配をしりました

便座のひんやり感に秋の訪れを知ったということ。「尻」と「知り」をかけたところがミソ。しかし、「あつたか便座」が普及しつつあるから近い将来、便座では秋の気配が分らない……、ということになるかもしれませんね。



大政 利雄 (松前町)

肩書きが消えると来なくなる歳暮

歳暮中元は会社の上司に贈る場合は「賄賂」の役目をするから、当然です。お歳暮セール、お中元セールに、ひとこと「公然賄賂」で昇進、栄転を勝ち取りましょう」と書き添えれば、歳暮中元の意味が理解されて売上倍増するかも。

古今の名句



笹本 英子

ラブレター書かぬ息子をはがゆがり

明治四十三年、島根県生まれ。大阪砲兵工廠の工員時代に川柳と出会った。貧しい農家に嫁いだが、姑、義弟、夫が次々と精神障害者になる不幸に見舞われながら、川柳を生きがいとして気丈に生きた。

今月の
八木健



KYです無風の町に風車とは
早大製の風車がつくば市に設置されたが、無風地帯のため回らず訴訟となり、二億円の賠償支払い判決となった。KYは周囲の風が読めない人を言うがこれはホンモノのKYでした。

本コーナーが
待望の単行本化
好評発売中!!

「八木健の川柳アート」では、川柳を募集しています。テーマは自由。未発表のオリジナル作品に限りません。採用された作品には八木さんが「川柳アート」を作り、本誌に掲載の上、採用者にプレゼントいたします。応募方法は36ページをご覧ください。